

TBS社員から帯広拠点の登山ガイドに転身 高柳昌央（たかやなぎ・まさお）さん

08/19 10:37



8月上旬の植村直己・帯広野外学校（帯広市）の第100回サバイバルキャンプを中心スタッフとして支えた。「子供たちは釣りや山菜採取、まき割り、テント生活で食べて生きるすべてを学んだはず」と振り返る。

冒険家の故植村直己さんの明治大山岳部の後輩。25年勤めたTBSを一昨年退社、帯広に生活拠点を移し、家族が残る東京と往来する。大好きな日高山脈の発信に力を入れる。

TBSでは営業や海外事業、BS放送の編成などを担当。休暇の多くを日高山脈通いに当て、月1回ペースで来道してきた。山脈山麓にある帯広野外学校を知ってからは「大先輩の思いを将来につなぎたい」と、運営に携わって10年余になる。

中3の時、旧国鉄周遊券を使った鉄道旅で道内を放浪したのが北海道との縁の始まり。高3の時、日高山脈・カムイエクウチカウシ山に単身で入るが、途中撤退し、この原体験が「日高通い」の原動力になる。大学では、既に帰らぬ人となっていた「植村スピリット」を受け継ぐ名門山岳部で薫陶を受けた。大学院時代の4回目の海外登山で雪崩に遭って大けがを負い、TBS入社が半年遅れた。

学生の時に決意した座右の銘「25歳までは自分のため、50歳までは家族のため、それ以降は社会のため生きる」を実践。帯広を拠点とする登山ガイドに転身し、野外学校の年4～5回の行事をボランティアで担う。

日高通いをしていた際、道内で知り合った妻は北見市出身の医師。中高生の2女の父で、明大山岳部コーチも務める。東京都出身の52歳。（黒川伸一）